

日中青年の自己意識の発達に関する比較研究

高木 秀明*・張 日昇**

A Comparative Study of the Development of Self-Consciousness between Japanese and Chinese Adolescents

Hideaki TAKAGI and Risheng ZHANG

Abstract

The purpose of this study is to investigate the self-esteem, self-acceptance and ego-identities in Japanese and Chinese adolescents, and to clarify the relationships among their self-esteem, self-acceptance and ego-identities. The subjects were 871 Japanese and 824 Chinese senior high school students, and 1,393 Japanese and 738 Chinese college students.

The following results were obtained :

- (1) Chinese adolescents had higher self-esteem and self-acceptance than Japanese adolescents.
- (2) Japanese college students had higher self-esteem and self-acceptance than Japanese high school students, but Chinese college students had lower self-esteem and self-acceptance than Chinese high school students.
- (3) The percentages of foreclosure status and identity achievement-foreclosure intermediate status were higher in Chinese adolescents than in Japanese adolescents, and the percentage of identity diffusion status were lower in Chinese adolescents than in Japanese adolescents.
- (4) As regarding the relationships among self-esteem, self-acceptance and ego-identities, there were some similarities and differences between Japanese and Chinese adolescents.

青年期は「第二の誕生」の時期と呼ばれ、自我の発見と確立の時代であり、自己意識の発達及び形成ともっともつながりの深い時期である。この時期においては、青年の自我は拡大し、自分に対する意識は深化し、新たな自己を統合しようと試みつつ、自己形成を行っていく。Spranger (1963) の「自我の発見」、Erikson (1959) の「identity の確立」な

* 心理学教室 (Dept. of Psychology)

** 本学教育学部外国人客員研究員 (Visiting Research Fellow in Faculty of Education)

どに示されているように、青年期の意義は自我の覚醒にひきつづく主体的な人格形成にあると認められている。

一方、従来の自己意識に関する研究では、適応との関連に焦点が当てられてきた。Rogers & Dymond (1954) が自己意識と適応の関連に関してQ分類法により患者の「現実の自己」と「理想の自己」との差異を治療前と治療後において比較研究して以来、適応—不適応の問題が自己意識の面から実証的に論じられてきた。

しかし、「自己意識の構造は、青年期独自の特質と意味をもつものであって、単に適応という観点から論じられるだけでなく、発達心理学的観点から論じられなければならない」(加藤, 1977)。そして、青年の自己意識の発達を考える上では、青年の置かれている社会の要因や特質及び文化背景の相違を十分に考慮しなければならない。

本研究は自己受容 (self-acceptance) を自己意識の中心概念の一つとして検討を行ったうえで、それ以外の自己に対する意識：自尊感情 (self-esteem), 自我同一性 (ego-identity) との関連について明らかにするとともに、異なる社会制度、文化背景に置かれている日中青年の自己意識の発達に関する様々な異同を明らかにすることを目的とする。

方 法

1. 調査対象

日本 高校：神奈川県の公立高校5校の1～3年生871名 (男子445名, 女子426名)。

大学：関東地方の国立大学2校, 私立大学5校の1～4年生1,393名 (男子735名, 女子658名)。

中国 高校：中国の北京と洛陽の高校3校の1～3年生824名 (男子427名, 女子397名)。

大学：中国の北京, 天津, 洛陽の大学3校の1～3年生738名 (男子406名, 女子332名)。

2. 調査期間

1989年12月～1990年1月

3. 調査項目

(1) 自尊感情

Rosenberg (1965) の自尊感情尺度10項目を用いた。評定は「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「すこしあてはまる」、「非常にあてはまる」の4段階評定で行われ、それぞれの回答に対して1点～4点の得点が与えられた。尺度得点は項目得点の合計を項目数で割って求めた。

(2) 自己受容

高木・徳永 (1989) が作成した自己受容質問項目 (4尺度, 16項目) を用いた。

尺度Ⅰ 肯定的な自己認知に対する自己受容 (4項目)

尺度Ⅱ 否定的な自己認知に対する自己受容 (4項目)

尺度Ⅲ 肯定的な自己認知に対する自己拒否 (4項目)

尺度Ⅳ 否定的な自己認知に対する自己拒否 (4項目)

評定は「あてはまらない」、「少しあてはまる」、「だいたいあてはまる」、「かなりあてはまる」、「とてもよくあてはまる」の5段階評定で行われ、それぞれの回答に対して1点～5点の得点が与えられた。各尺度得点は各尺度を構成する項目の得点を合計し、それらを各項目数で割って算出した。

(3) 自我同一性

加藤(1983)が作成した質問項目(3尺度, 12項目)を用いた。

尺度Ⅰ 現在の自己投入(4項目)

尺度Ⅱ 過去の危機(4項目)

尺度Ⅲ 将来の自己投入の希求(4項目)

評定は「全然そうではない」、「そうではない」、「どちらかといえばそうではない」、「どちらかといえばそうだ」、「かなりそうだ」、「まったくそのとおりだ」の6段階評定で行われ、それぞれの回答に1点～6点の得点が与えられた。各尺度得点は各尺度を構成する項目の得点を合計し、それらを各項目数で割って算出した。3尺度の得点の組合せにより6種類の同一性地位(「同一性達成地位」「同一性達成—権威受容中間地位」「権威受容地位」「積極的モラトリアム地位」「同一性拡散—積極的モラトリアム中間地位」「同一性拡散地位」)が決定された。

4. 結果の整理

(1) 度数分布

被験者の学年, 性, 年齢別の度数分布を調べた。

(2) 自尊感情, 自己受容, 自我同一性における性差, 発達差, 日中間の差

自尊感情, 自己受容, 自我同一性の各尺度について, 平均及び標準偏差を求め, 性差, 発達差と日中間の差を調べるためにt検定を行った。

(3) 同一性地位の度数分布

同一性地位の度数分布を求め, 性差, 発達差と日中間の差を調べるため χ^2 検定を行った。

(4) 自己受容と自尊感情の関連

自己受容と自尊感情との関連を調べるために, 両尺度間の相関係数を求め, 日中間の比較を行った。

(5) 自我同一性と自尊感情, 自己受容との関連

自我同一性と自尊感情, 自己受容との関連を調べるために, 日中高校, 大学生の各同一性地位ごとに自尊感情, 自己受容尺度の得点を求め, 分散分析によって同一性地位間の相違を比較した。

結 果

1. 被験者の学年, 性, 年齢別の度数分布

被験者である日中青年の学年, 性の内訳を Table 1, 年齢と性の内訳を Table 2 に示した。日本の高校生男女込み 871 名, 大学生男女込み 1,393 名, 中国の高校生男女込み 824 名, 大学生男女込み 738 名であり, 日本の大学生が他のグループよりも 500~600 名多い。総数は 3,826 名である。

Table 1 日中高校生, 大学生の学年別, 性別の人数 (括弧内は%)

学年	性	日 本				中 国			
		高 校		大 学		高 校		大 学	
1	男	189 (42.5)	376 (43.2)	296 (40.3)	654 (46.9)	189 (44.3)	368 (44.7)	155 (38.2)	217 (29.4)
	女	187 (43.9)		358 (54.4)		179 (45.1)		62 (18.7)	
2	男	216 (48.5)	429 (49.3)	302 (41.1)	506 (36.3)	204 (47.8)	386 (46.8)	65 (16.0)	142 (19.2)
	女	213 (50.0)		204 (31.0)		182 (45.8)		77 (23.2)	
3	男	40 (9.0)	66 (7.6)	128 (17.4)	224 (16.1)	34 (8.0)	70 (8.5)	186 (45.8)	379 (51.4)
	女	26 (6.1)		96 (14.6)		36 (9.1)		193 (58.1)	
4	男			9 (1.2)	9 (0.6)			0 (0.0)	0 (0.0)
	女			0 (0.0)				0 (0.0)	
合 計	男	445 (100.0)	871 (100.0)	735 (100.0)	1393 (100.0)	427 (100.0)	824 (100.0)	406 (100.0)	738 (100.0)
	女	426 (100.0)		658 (100.0)		397 (100.0)		332 (100.0)	

Table 1 をみると, 日本の高校生の方は, 1, 2年生が全体の9割以上を占め, 大学生の方は, 1, 2年生が全体の8割以上を占める。中国の高校生の方も, 1, 2年生が全体の9割以上を占め, 大学生の方は, 1, 3年生が全体の8割以上を占める。中国の大学生被験者の中には, 4年生がいなかった。

Table 2 をみると, 日本の高校生は男女ともに16歳と17歳の年齢層が多く, 全体の8割以上を占め, 大学生の方は男女ともに19, 20, 21歳の年齢層が多く, 男子は全体の8割以上, 女子は8割弱を占める。

中国の高校生も男女ともに16歳と17歳の年齢層が多く, 全体の8割以上を占め, 大学生の方も男女ともに19, 20, 21歳の年齢層が多く, 全体の8割以上を占める。

日本の高校生の平均年齢は男女ともに16.4歳である。日本の大学生男子の平均年齢は19.9歳, 大学生女子の平均年齢は19.6歳である。中国の高校生男子の平均年齢は16.5歳, 高校生女子の平均年齢は16.4歳であり, 日本の高校生とほぼ同じである。中国の大学生男子の平均年齢は20.4歳, 大学生女子の平均年齢は20.2歳であり, 日本の大学生よりも半年ほど年齢が高い。

男女を総合してみると, 日中高校生被験者の年齢は, 日中ともに16, 17歳が全体の8

Table 2 日中高校生、大学生の年齢別、性別の人数（括弧内は%）

年齢	性	日 本			中 国				
		高 校		大 学	高 校		大 学		
14	男				1 (0.2)		3		
	女				2 (0.5)		(0.4)		
15	男	55 (12.4)	97		37 (8.7)		67		
	女	42 (9.9)	(11.1)		30 (7.6)		(8.1)		
16	男	172 (38.7)	376		182 (42.6)		374		
	女	204 (47.9)	(43.2)		192 (48.4)		(45.4)		
17	男	188 (42.2)	350		162 (37.9)	310	6 (1.5)	7	
	女	162 (38.0)	(40.2)		148 (37.3)	(37.6)	1 (0.3)	(0.9)	
18	男	29 (6.5)	47	67 (9.1)	169	34 (8.0)	57	4 (1.0)	20
	女	18 (4.2)	(5.4)	102 (15.5)	(12.1)	23 (5.8)	(6.9)	16 (4.8)	(2.7)
19	男			220 (29.9)	479	6 (1.4)	7	49 (12.1)	91
	女			259 (39.4)	(34.4)	1 (0.3)	(0.8)	42 (12.7)	(12.3)
20	男			241 (32.8)	397	4 (0.9)	5	186 (45.8)	337
	女			156 (23.7)	(28.5)	1 (0.3)	(0.6)	151 (45.5)	(45.7)
21	男			158 (21.5)	265	1 (0.2)	1	114 (28.1)	218
	女			107 (16.3)	(19.0)	0 (0.0)	(0.1)	104 (31.3)	(29.5)
22	男			34 (4.6)	61			34 (8.4)	46
	女			27 (4.1)	(4.4)			12 (3.6)	(6.2)
23	男			10 (1.4)	14			10 (2.5)	13
	女			4 (0.6)	(1.0)			3 (0.9)	(1.8)
24~26	男			4 (0.5)	5			3 (0.7)	3
	女			1 (0.2)	(0.4)			0 (0.0)	(0.4)
無回答	男	1 (0.2)	1	1 (0.1)	3	0 (0.0)	0	0 (0.0)	3
	女	0 (0.0)	(0.1)	2 (0.3)	(0.2)	0 (0.0)	(0.0)	3 (0.9)	(0.4)
平均年齢	男	16.4	16.4	19.9	19.7	16.5	16.5	20.4	20.3
	女	16.4		19.6		16.4		20.2	
合計	男	445(100.0)	871	735(100.0)	1393	427(100.0)	824	406(100.0)	738
	女	426(100.0)	(100.0)	658(100.0)	(100.0)	397(100.0)	(100.0)	332(100.0)	(100.0)

割以上を占める。日中大学生被験者の年齢は、日中ともに19, 20, 21歳が全体の8割以上を占める。平均年齢は日本の高校生16.4歳、大学生19.7歳であり、中国の高校生16.5歳、大学生20.3歳である。日本の高校生の年齢は15歳から18歳の範囲であるが、中国の高校生の方は14歳から21歳までに分布し、幅が大きい。日中大学生の年齢の方は17, 18歳から24~26歳までに分布し、幅がかなり大きい。

2. 自尊感情, 自己受容, 自我同一性における性差, 発達差と日中間の差

日本の高校、大学生と中国の高校、大学生の自尊感情, 自己受容, 自我同一性各尺度の

Table 3 日中高校生、大学生の自尊感情、自己受容、自我同一性尺度得点

自尊感情	日本				中国				性差				発達差				日中間差										
	高校		大学		高校		大学		日本	中国	日本	中国	日本	中国	日本	中国	高校	大学	高校	大学							
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	高校	大学	高校	大学	高校	大学	高校	大学	男子	女子	男子	女子							
	人数	M	SD	人数	M	SD	人数	M	SD	人数	M	SD	人数	M	SD	人数	M	SD	人数	M	SD						
I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	438~443	2.48	0.44	414~425	2.31	0.39	720~733	2.62	0.45	639~653	2.48	0.47	374~393	3.14	0.40	380~401	3.10	0.39	311~328	3.05	0.40	***	***	***	***		
	443	2.48	0.44	425	2.31	0.39	733	2.62	0.45	653	2.48	0.47	393	3.14	0.40	401	3.10	0.39	328	3.05	0.40	***	***	***	***		
	M	2.48	0.44	M	2.31	0.39	M	2.62	0.45	M	2.48	0.47	M	3.14	0.40	M	3.10	0.39	M	3.05	0.40	***	***	***	***		
	SD	0.44	SD	0.39	SD	0.45	SD	0.47	SD	0.40	SD	0.40	SD	0.40	SD	0.39	SD	0.39	SD	0.40	SD	0.40	***	***	***	***	
II. 否定的な自己認知に対する自己受容	3.47	0.90	3.30	0.84	3.58	0.86	3.01	0.98	3.94	0.80	3.85	0.75	3.94	0.77	3.69	0.81	3.65	0.84	4.03	0.75	***	***	***	***	***	***	
	0.90	3.30	0.84	0.86	3.01	0.98	0.80	3.94	0.80	0.80	0.75	0.77	0.81	0.84	0.75	0.84	0.84	0.75	0.75	0.75	***	***	***	***	***	***	
	M	3.47	0.90	M	3.30	0.84	M	3.58	0.86	M	3.01	0.98	M	3.94	0.77	M	3.69	0.81	M	4.03	0.75	***	***	***	***	***	***
	SD	0.90	SD	0.84	SD	0.86	SD	0.98	SD	0.80	SD	0.75	SD	0.77	SD	0.81	SD	0.84	SD	0.75	SD	0.75	***	***	***	***	***
III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	2.84	0.92	2.77	0.93	3.08	1.02	1.93	0.80	1.78	0.66	1.96	0.89	1.64	0.59	1.74	0.63	1.78	0.75	1.78	0.75	***	***	***	***	***	***	
	0.92	2.77	0.93	1.02	1.93	0.80	0.80	1.78	0.66	0.89	0.89	0.59	0.59	0.63	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75	***	***	***	***	***	***	
	M	2.84	0.92	M	2.77	0.93	M	3.08	1.02	M	1.93	0.80	M	1.78	0.63	M	1.78	0.75	M	1.78	0.75	***	***	***	***	***	***
	SD	0.92	SD	0.93	SD	1.02	SD	0.80	SD	0.66	SD	0.89	SD	0.59	SD	0.63	SD	0.75	SD	0.75	SD	0.75	***	***	***	***	***
IV. 否定的な自己認知に対する自己拒否	3.01	0.93	3.33	0.90	2.90	0.93	2.90	0.93	3.19	0.91	2.09	0.78	2.30	0.81	2.02	0.74	2.40	0.90	2.40	0.90	***	***	***	***	***	***	
	0.93	3.33	0.90	0.93	2.90	0.93	2.90	0.93	0.91	0.78	0.81	0.74	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	***	***	***	***	***	***	
	M	3.01	0.93	M	3.33	0.90	M	2.90	0.93	M	3.19	0.91	M	2.09	0.78	M	2.02	0.74	M	2.40	0.90	***	***	***	***	***	***
	SD	0.93	SD	0.90	SD	0.93	SD	0.93	SD	0.91	SD	0.78	SD	0.81	SD	0.74	SD	0.90	SD	0.90	SD	0.90	***	***	***	***	***
I. 現在の自己投入	4.01	1.16	3.84	1.07	4.11	1.08	4.11	1.08	3.91	1.11	4.57	0.84	4.35	0.84	4.50	0.87	4.24	0.79	4.24	0.79	***	***	***	***	***	***	
	1.16	3.84	1.07	1.08	4.11	1.08	4.11	1.08	1.11	0.84	0.84	0.84	0.84	0.84	0.87	0.79	0.79	0.79	0.79	0.79	***	***	***	***	***	***	
	M	4.01	1.16	M	3.84	1.07	M	4.11	1.08	M	3.91	1.11	M	4.57	0.84	M	4.50	0.87	M	4.24	0.79	***	***	***	***	***	***
	SD	1.16	SD	1.07	SD	1.08	SD	1.08	SD	1.11	SD	0.84	SD	0.84	SD	0.87	SD	0.79	SD	0.79	SD	0.79	***	***	***	***	***
II. 過去の危機	3.96	0.85	4.06	0.90	4.32	0.86	4.32	0.86	4.39	0.84	3.87	0.77	3.81	0.77	4.07	0.74	3.98	0.77	3.98	0.77	***	***	***	***	***	***	
	0.85	4.06	0.90	0.86	4.32	0.86	4.32	0.86	0.84	0.77	0.77	0.77	0.77	0.74	0.77	0.77	0.77	0.77	0.77	0.77	***	***	***	***	***	***	
	M	3.96	0.85	M	4.06	0.90	M	4.32	0.86	M	4.39	0.84	M	3.87	0.77	M	4.07	0.74	M	3.98	0.77	***	***	***	***	***	***
	SD	0.85	SD	0.90	SD	0.86	SD	0.86	SD	0.84	SD	0.77	SD	0.77	SD	0.77	SD	0.77	SD	0.77	SD	0.77	***	***	***	***	***
III. 将来の自己投入の希求	3.94	0.85	3.98	0.84	4.23	0.84	4.23	0.84	4.26	0.83	4.22	0.59	4.24	0.62	4.22	0.61	4.10	0.64	4.10	0.64	***	***	***	***	***	***	
	0.85	3.98	0.84	0.84	4.23	0.84	4.23	0.84	0.83	0.59	0.59	0.62	0.62	0.61	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	***	***	***	***	***	***	
	M	3.94	0.85	M	3.98	0.84	M	4.23	0.84	M	4.26	0.83	M	4.22	0.62	M	4.22	0.61	M	4.10	0.64	***	***	***	***	***	***
	SD	0.85	SD	0.84	SD	0.84	SD	0.84	SD	0.83	SD	0.59	SD	0.62	SD	0.64	SD	0.64	SD	0.64	SD	0.64	***	***	***	***	***

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

性差、発達差と日中間の差を Table 3 に示した。

(1) 性差

まず自尊感情について述べる。自尊感情においては、日本の高校、大学生にはともに有意な性差がみられたが、日本の高校、大学生男子はともに日本の高校、大学生女子よりも高い自尊感情を持っていることがわかる。中国の高校、大学生においては有意な性差がみられず、男女ともに高い自尊感情を持っていることがわかる。

次に自己受容について述べる。自己受容においては、日本の高校生では尺度Ⅰと尺度Ⅳ、日本の大学生では尺度Ⅳに性差がみられた。中国の高校生では尺度Ⅲと尺度Ⅳ、中国の大学生では尺度Ⅰと尺度Ⅳに性差がみられた。

尺度Ⅰについては、日本の高校生では、1%水準で有意な性差がみられたが、高校生男子は高校生女子よりも肯定的な自己を受容する傾向がある。日本の大学生では、有意な性差がみられず、大学生男女ともに肯定的な自己を受容する傾向がある。中国の高校生では、有意な性差がみられず、高校生男女ともに肯定的な自己を受容することがわかる。中国の大学生では、1%水準の有意な性差がみられ、大学生女子は大学生男子よりも肯定的な自己を受容することがわかる。

尺度Ⅱについては、日本の高校、大学生ではともに有意な性差がみられない。中国の高校、大学生でもともに有意な性差がみられず、高校、大学生男女ともに否定的な自己を受容することがわかる。

尺度Ⅲについては、日本の高校、大学生ではともに性差がみられず、日本の高校、大学生男女ともに肯定的な自己をあまり拒否しない傾向がある。中国の高校生では、1%水準の有意な性差がみられたが、高校生女子は高校生男子よりも肯定的な自己を拒否しないことがわかる。中国の大学生では、有意な性差がみられず、大学生男女ともに肯定的な自己を拒否しないことがわかる。

尺度Ⅳについては、日中の高校、大学生ではともに有意な性差がみられた。日本の高校、大学生でも、中国の高校、大学生でも、女子の方が、男子よりも否定的な自己を拒否する傾向が強いことを示した。

次に自我同一性について述べる。日本の高校、大学生ではともに尺度Ⅰのみ性差がみられた。中国の高校生では尺度Ⅰのみ性差がみられたが、中国の大学生では尺度Ⅰ、尺度Ⅲに性差がみられた。

尺度Ⅰについては、日本の高校生には5%水準の性差がみられたが、日本の高校生男子は高校生女子よりも現在の自己投入がより強かった。日本の大学生では0.1%水準の有意な性差がみられ、大学生男子は大学生女子よりも現在の自己投入がより強かった。中国の高校、大学生ではともに0.1%水準で有意な性差がみられ、いずれも男子の方は女子の方よりも現在の自己投入がより強いことがわかる。

尺度Ⅱについては、日中の高校、大学生ではいずれも性差がみられず、ともに過去の危機を経験していることがわかる。

尺度Ⅲについては、中国の大学生のみ1%水準の性差がみられ、男子の方が女子よりも将来の自己投入の希求がより強くなっていることがわかる。

(2) 発達差

まず自尊感情について述べる。自尊感情においては、日本の高校、大学生には、男女ともに発達差がみられ、大学生男子、女子は、高校生男子、女子よりも高い自尊感情を持っている。中国の高校、大学生には、自尊感情については、男女ともに有意な発達差がみられ、大学生男子、女子は、高校生男子、女子よりもやや低い自尊感情を持っていることがわかる。

次に自己受容について述べる。日本の高校、大学生では、男女ともに自己受容の各下位尺度に発達差がみられた。中国の高校、大学生では、男子は自己受容尺度Ⅱ、女子は尺度Ⅱ、尺度Ⅲに発達差がみられた。

尺度Ⅰについては、日本の高校、大学生男子には5%水準の有意差、女子は0.1%水準の有意差がみられ、大学生男女は、高校生男女よりも肯定的な自己を受容する傾向がある。

尺度Ⅱについては、日中ともに発達差がみられた。日本の大学生は男女ともに高校生男女よりも否定的な自己を受容する傾向がある。逆に中国の大学生は男女ともに高校生男女よりも否定的な自己を受容する傾向が弱くなることがわかる。

尺度Ⅲについては、日本の大学生男女は、高校生男女よりも肯定的な自己を拒否する傾向が弱くなる。中国の方は女子のみ発達差がみられ、大学生女子は高校生女子よりも肯定的な自己を拒否する傾向が強いことがわかる。

尺度Ⅳについては、日本の高校、大学生男女ともに5%水準の発達差がみられ、大学生男女は高校生男女よりも否定的な自己を拒否する傾向が弱くなる。

次に自我同一性について述べる。日本の高校、大学生では、男女ともに尺度Ⅱ、尺度Ⅲに発達差がみられ、中国の高校、大学生では男子は尺度Ⅱ、女子は尺度Ⅱ、尺度Ⅲに発達差がみられた。

尺度Ⅱについては、日中ともに大学生男女は、高校生男女よりも、より強い過去の危機を経験している。

尺度Ⅲについては、日本の大学生の評定は、高校生の評定よりも男女ともに高く、将来の自己投入の希求がより強くなっている。中国の大学生女子の評定は、高校生女子の評定よりも低く、将来の自己投入の希求がより弱くなっている。

(3) 日中間の差

まず、自尊感情については、日本の高校、大学生は男女ともに、中国の高校、大学生男女と有意な差がみられ、中国の高校、大学生男女は、日本の高校、大学生男女よりも、有意に高い自尊感情を持っていることがわかる。

次に自己受容の各尺度においても、日本の高校、大学生男女と中国の高校、大学生男女との間には、それぞれ有意な差が認められた。

尺度Ⅰについては、中国の高校、大学生男女は、日本の高校、大学生男女よりも肯定的な自己を受容していることがわかる。

尺度Ⅱについても、中国の高校、大学生男女は、日本の高校、大学生男女よりも否定的な自己を受容していることがわかる。

Table 4 日中高校生、大学生の同一性地位の度数分布

	日本				中国				性差				発達差				日中間差				
	高校		大学		高校		大学		日本		中国		日本		中国		高校		大学		
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
同一性達成地位 (A地位)	人数	28	24	77	63	16	12	28	11												
	%	6.4	5.7	10.6	9.7	3.9	3.1	7.1	3.4												
同一性達成一権 威受容中間地位 (A F地位)	人数	63	32	82	60	93	62	85	49												
	%	14.4	7.6	11.3	9.2	22.5	15.9	21.6	15.2												
権威受容地位 (F地位)	人数	29	9	21	14	43	37	29	20												
	%	6.6	2.1	2.9	2.2	10.4	9.5	7.4	6.2												
積極的モラトリア ム地位(M地位)	人数	18	31	75	76	24	27	22	19												
	%	4.1	7.4	10.3	11.7	5.8	6.9	5.6	5.9												
同一性拡散一積極 的モラトリアム中 間地位(DM地位)	人数	235	260	409	371	225	242	218	210												
	%	53.8	61.9	56.3	57.2	54.5	62.2	55.5	65.2												
同一性拡散地位 (D地位)	人数	64	64	63	65	12	9	11	13												
	%	14.6	15.2	8.7	10.0	2.9	2.3	2.8	4.0												
合計	人数	437	420	727	649	413	389	393	322												
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0												

* p<0.05 ** p<0.01 *** p<0.001

尺度Ⅲについては、中国の高校、大学生男女は、日本の高校、大学生男女よりも肯定的な自己をあまり拒否しないことがわかる。

尺度Ⅳについては、日本の高校、大学生男女は、中国の高校、大学生男女よりも否定的な自己をやや拒否することがわかる。

次に、自我同一性尺度をみると、高校生男子では尺度Ⅰ、尺度Ⅲに、大学生男子では尺度Ⅰ、尺度Ⅱに、高校、大学生女子では尺度Ⅰ、尺度Ⅱ、尺度Ⅲに日本と中国の間で有意差が認められた。

尺度Ⅰでは、中国の高校、大学生男女は、日本の高校、大学生男女よりも現在の自己投入がより強い。

尺度Ⅱでは、日本の高校生女子と大学生男女は、中国の高校生女子や大学生男女よりも、より強い過去の危機を経験している。

尺度Ⅲでは、中国の高校生男女は、日本の高校生男女よりも将来の自己投入の希求がより強いが、大学生女子では、日本の方が中国よりも将来の自己投入の希求がより強くなっている。

3. 同一性地位の度数分布

日本の高校、大学生男女と中国の高校、大学生男女の同一性地位の度数分布を Table 4 に示した。日中の高校、大学生男女ともDM地位の者が過半数を占めている。

(1) 性差

日本の高校生と中国の大学生において有意な性差がみられた。日本の高校生では、AF地位とF地位は男子の方が女子よりも多く、M地位とDM地位は女子の方が男子よりも多い。中国の大学生では、A地位とAF地位は男子の方が女子よりも多く、DM地位は女子の方が男子よりも多い。

(2) 発達差

日本の男女において有意な発達差がみられた。男子では、A地位とM地位は大学生の方が高校生よりも多く、AF地位、F地位、D地位は高校生の方が大学生よりも多い。女子では、A地位とM地位は大学生の方が高校生よりも多く、DM地位とD地位は高校生の方が大学生よりも多い。

(3) 日中間の差

高校、大学生の男女ともに日中間で有意差がみられた。AF地位とF地位では、高校、大学生の男女ともに中国の方が日本よりも多かった。一方、D地位では、高校、大学生の男女ともに日本の方が中国よりも多かった。A地位とM地位では、大学生の男女において日本の方が中国よりも多かった。DM地位では、大学生女子において中国の方が日本よりも多かった。

4. 自己受容と自尊感情の関連

自己受容各下位尺度と自尊感情との相関係数を日中高校、大学生男女別に求めた結果を、Table 5 に示した。

日中の高校、大学生男女ともに自尊感情は自己受容と有意な正の相関を示し、自己拒否とは有意な負の相関を示していることから、自己受容と自尊感情には関連のあることがわ

Table 5 自己受容尺度と自尊感情との相関係数

	日 本				中 国			
	高 校		大 学		高 校		大 学	
	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
自 己 受 容 人数	434~ 437	409~ 413	712~ 718	630~ 635	397~ 400	363~ 370	370~ 373	300~ 305
I. 肯定的な自己認知 に対する自己受容	*** 0.42	*** 0.45	*** 0.43	*** 0.48	*** 0.22	*** 0.22	** 0.15	** 0.18
II. 否定的な自己認知 に対する自己受容	*** 0.49	*** 0.51	*** 0.51	*** 0.59	*** 0.33	*** 0.45	*** 0.36	*** 0.53
III. 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	*** -0.44	*** -0.50	*** -0.48	*** -0.55	*** -0.29	*** -0.38	*** -0.33	*** -0.47
IV. 否定的な自己認知 に対する自己拒否	*** -0.53	*** -0.49	*** -0.52	*** -0.56	*** -0.42	*** -0.50	*** -0.45	*** -0.51

** p<0.01 *** p<0.001

かる。しかし、その関連の強さには、日本と中国の間で相違がみられた。日本の高校、大学生男女の場合には、自己受容と自尊感情の相関の程度は0.5前後であるが、中国の高校、大学生男女の場合には、肯定的な自己に対する受容や拒否と自尊感情との相関はもっと弱い。中国の高校、大学生では、日本の高校、大学生の場合よりも、自己意識の中での自尊感情と自己受容の分化の度合いが大きいといえよう。

5. 各同一性地位における自尊感情、自己受容尺度得点

(1) 日本の高校生男子の各同一性地位の自尊感情、自己受容尺度得点

Table 6 に示すように、自尊感情においては、F地位が最も高く、次いでAF地位、M地位、A地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。各地位の間の差については、F地位とAF地位は、A地位、DM地位、D地位との間に、M地位、A地位、DM地位は、D地位との間に有意な差があった。

自己受容においては、尺度Iについては、F地位が最も高く、次いでM地位、AF地位、A地位、DM位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位は、他のすべての地位との間に有意差があり、またF地位とDM地位との間にも有意な差があった。

尺度IIについては、F地位が最も高く、次いでAF地位、A地位、M地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意差があり、またDM地位とF地位、AF地位の間にも有意差があった。

尺度IIIについては、D地位が最も高く、次いでA地位、DM地位、M地位、AF地位の順であり、最も低いのがF地位であった。D地位は、F地位、AF地位、M地位、DM地位との間に有意な差があった。

尺度IVについては、D地位が最も高く、次いでA地位、DM地位、M地位、AF地位の順であり、最も低いのがF地位であった。D地位は、F地位、AF地位との間に有意な差

Table 6 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (日本高校生男子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差												
	A地位					M地位					DM地位					A / F		A / DM		F / DM		M / D	
	人数	27~28	61~63	29	17~18	232~234	63~64	D地位	人数	27~28	61~63	29	17~18	232~234	63~64	D地位	A / F	A / DM	F / DM	M / D	DM / D		
自己受容	M	2.49	2.69	2.82	2.60	2.46	2.14		M	2.49	2.69	2.82	2.60	2.46	2.14		*	**	**	**	**		
	SD	0.46	0.43	0.37	0.41	0.39	0.45		S	0.46	0.43	0.37	0.41	0.39	0.45		**	**	**	**	**		
	M	3.58	3.70	4.04	3.82	3.45	2.89		M	3.58	3.70	4.04	3.82	3.45	2.89		**	**	**	**	**		
	SD	1.01	0.90	0.72	0.67	0.81	0.96		S	1.01	0.90	0.72	0.67	0.81	0.96		**	**	**	**	**		
I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	3.06	3.17	3.46	2.99	2.78	2.28		M	3.06	3.17	3.46	2.99	2.78	2.28		**	**	**	**	**		
	SD	0.99	0.97	0.87	1.06	0.81	0.89		S	0.99	0.97	0.87	1.06	0.81	0.89		**	**	**	**	**		
	M	2.15	1.85	1.72	1.90	2.07	2.51		M	2.15	1.85	1.72	1.90	2.07	2.51						*		
	SD	1.01	0.83	0.57	1.03	0.78	1.05		S	1.01	0.83	0.57	1.03	0.78	1.05								
II. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	3.12	2.72	2.66	2.81	3.04	3.32		M	3.12	2.72	2.66	2.81	3.04	3.32								
	SD	0.93	1.02	1.05	0.78	0.88	0.94		S	0.93	1.02	1.05	0.78	0.88	0.94		**	**	**	**	**		
	M	2.49	2.69	2.82	2.60	2.46	2.14		M	2.49	2.69	2.82	2.60	2.46	2.14		*	**	**	**	**		
	SD	0.46	0.43	0.37	0.41	0.39	0.45		S	0.46	0.43	0.37	0.41	0.39	0.45		**	**	**	**	**		

* p<0.05 ** p<0.01

Table 7 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (日本高校生女子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差												
	A地位					M地位					DM地位					A / F		A / DM		F / DM		M / D	
	人数	24	30~32	8~9	30	253~259	62~64	D地位	人数	24	30~32	8~9	30	253~259	62~64	D地位	A / F	A / DM	F / DM	M / D	DM / D		
自己受容	M	2.31	2.50	2.49	2.46	2.31	2.12		M	2.31	2.50	2.49	2.46	2.31	2.12		*	**	*	*	*		
	SD	0.46	0.46	0.48	0.40	0.35	0.39		S	0.46	0.46	0.48	0.40	0.35	0.39		**	**	**	**	**		
	M	3.71	3.57	3.72	3.72	3.28	2.84		M	3.71	3.57	3.72	3.72	3.28	2.84		**	**	**	**	**		
	SD	0.79	0.89	0.64	0.84	0.78	0.90		S	0.79	0.89	0.64	0.84	0.78	0.90		**	**	**	**	**		
I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	3.44	3.06	3.41	3.20	2.71	2.35		M	3.44	3.06	3.41	3.20	2.71	2.35		**	*	**	*	**		
	SD	1.05	1.06	0.71	0.95	0.84	0.93		S	1.05	1.06	0.71	0.95	0.84	0.93		**	**	**	**	**		
	M	2.19	1.96	1.78	1.91	2.18	2.45		M	2.19	1.96	1.78	1.91	2.18	2.45								
	SD	1.11	0.72	1.03	0.76	0.85	0.99		S	1.11	0.72	1.03	0.76	0.85	0.99								
II. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	3.53	3.16	2.92	3.16	3.34	3.45		M	3.53	3.16	2.92	3.16	3.34	3.45								
	SD	0.91	1.01	0.94	0.84	0.87	0.97		S	0.91	1.01	0.94	0.84	0.87	0.97								
	M	2.49	2.69	2.82	2.60	2.46	2.14		M	2.49	2.69	2.82	2.60	2.46	2.14		*	**	*	*	*		
	SD	0.46	0.43	0.37	0.41	0.39	0.45		S	0.46	0.43	0.37	0.41	0.39	0.45		**	**	**	**	**		

* p<0.05 ** p<0.01

Table 8 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (日本大学生男子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差													
	A地位		AF地位		F地位		M地位		DM地位		D地位		A/D		AF/DM		AF/M		F/DM		F/M		DM/D	
	74~77	81~82	21	74~75	399~408	62~63	人数	2.70	2.84	2.87	2.64	2.60	2.32	**	*	**	*	**	*	**	**	**	**	
M	0.46	0.45	0.45	0.45	2.60	2.32																		
SD	0.46	0.45	0.45	0.45	2.60	2.32																		
自己受容	3.89	3.90	3.86	3.78	3.49	3.21																		
M	0.78	0.91	0.85	0.87	0.80	0.92																		
SD	0.78	0.91	0.85	0.87	0.80	0.92																		
自己受容	3.44	3.50	3.35	3.24	2.94	2.77																		
M	0.96	1.09	1.05	1.03	0.97	1.04																		
SD	0.96	1.09	1.05	1.03	0.97	1.04																		
自己受容	1.85	1.73	1.68	1.89	1.91	2.49																		
M	0.83	0.77	0.48	0.69	0.79	0.84																		
SD	0.83	0.77	0.48	0.69	0.79	0.84																		
自己受容	2.93	2.64	2.57	3.17	2.88	3.23																		
M	0.94	0.92	0.78	0.96	0.91	0.89																		
SD	0.94	0.92	0.78	0.96	0.91	0.89																		

* p<0.05 ** p<0.01

Table 9 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (日本大学生女子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差													
	A地位		AF地位		F地位		M地位		DM地位		D地位		A/D		AF/DM		AF/M		F/DM		F/M		DM/D	
	60~63	56~60	14	75~76	361~370	64~65	人数	2.59	2.77	3.09	2.52	2.45	2.12	*	**	*	**	*	**	*	**	*	**	
M	0.47	0.53	0.54	0.40	0.43	0.41																		
SD	0.47	0.53	0.54	0.40	0.43	0.41																		
自己受容	4.00	3.81	4.34	3.79	3.39	3.05																		
M	0.90	0.84	0.65	0.82	0.81	0.92																		
SD	0.90	0.84	0.65	0.82	0.81	0.92																		
自己受容	3.27	3.50	3.86	3.17	2.93	2.47																		
M	1.16	0.94	0.97	1.01	0.88	0.91																		
SD	1.16	0.94	0.97	1.01	0.88	0.91																		
自己受容	1.87	1.62	1.61	1.75	1.99	2.43																		
M	0.92	0.64	0.69	0.85	0.88	0.93																		
SD	0.92	0.64	0.69	0.85	0.88	0.93																		
自己受容	3.29	2.95	2.54	3.14	3.18	3.57																		
M	1.04	0.95	0.83	0.71	0.91	0.87																		
SD	1.04	0.95	0.83	0.71	0.91	0.87																		

* p<0.05 ** p<0.01

があった。

(2) 日本の高校生女子の各同一地位の自尊感情, 自己受容尺度得点

Table 7 に示すように, 自尊感情においては, AF地位が最も高く, 次いでF地位, M地位, A地位とDM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意差があり, またDM地位はAF地位との間に有意な差があった。

自己受容においては, 尺度Iについては, F地位とM地位が最も高く, 次いでA地位, AF地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。D地位と他のすべての地位との間に有意な差があった。

尺度IIについては, A地位が最も高く, 次いでF地位, M地位, AF地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。DM地位, D地位は, それぞれ他の各地位との間に有意な差があった。

尺度IIIについては, D地位が最も高く, 次いでA地位, DM地位, AF地位, M地位, F地位の順であるが, 各地位の間には有意な差がなかった。

尺度IVについては, A地位が最も高く, 次いでD地位, DM地位, AF地位とM地位, F地位の順であるが, 各地位の間には有意な差がなかった。

(3) 日本の大学生男子の各同一性地位の自尊感情, 自己受容尺度得点

Table 8 に示したように, 自尊感情においては, F地位が最も高く, 次いでAF地位, A地位, M地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。F地位とAF地位はM地位, DM地位, D地位との間に有意な差があり, またD地位はA地位, M地位, DM地位との間にも有意な差があった。

自己受容においては, 尺度Iについては, AF地位が最も高く, 次いでA地位, F地位, M地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり, またDM地位はAF地位, A地位との間に有意な差があった。

尺度IIについては, AF地位が最も高く, 次いでA地位, F地位, M地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。D地位はAF地位, A地位, F地位, M地位との間に有意な差があり, DM地位はAF地位, A地位との間に有意な差があった。

尺度IIIについては, D地位が最も高く, 次いでDM地位, M地位, A地位, AF地位, F地位の順であった。D地位と他のすべての地位との間に有意な差があった。

尺度IVについては, D地位が最も高く, 次いでM地位, A地位, DM地位, AF地位の順であり, 最も低いのがF地位であった。D地位とM地位はDM地位, AF地位, F地位との間に有意な差があった。

(4) 日本の大学生女子の各同一性地位の自尊感情, 自己受容尺度得点

Table 9 に示したように, 自尊感情においては, F地位が最も高く, 次いでAF地位, A地位, M地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。A地位とM地位との間, M地位とDM地位との間には有意な差がなかったが, それ以外の各地位の間には有意な差があった。

自己受容においては, 尺度Iについては, F地位が最も高く, 次いでA地位, AF地

位, M地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。DM地位, D地位はそれぞれ他の各地位との間に有意な差があった。また, F地位はAF地位, M地位との間にも有意な差があった。

尺度Ⅱについては, F地位が最も高く, 次いでAF地位, A地位, M地位, DM地位の順であり, D地位が最も低かった。F地位とAF地位の間, AF地位とA地位の間, A地位とM地位の間には有意な差がなかった。それ以外の各地位の間には有意な差がみられた。

尺度Ⅲについては, D地位が最も高く, 次いでDM地位, A地位, M地位, AF地位, F地位の順になっているが, D地位と他のすべての地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅳについては, D地位が最も高く, 次いでA地位, DM地位, M地位, AF地位の順であり, 最も低いのがF地位であった。D地位はDM地位, M地位, AF地位, F地位との間に有意な差があり, A地位はAF地位, F地位との間に有意な差があった。またF地位はDM地位, M地位との間にも有意な差があった。

(5) 中国の高校生男子の各同一性地位の自尊感情, 自己受容尺度得点

Table 10 に示すように, 自尊感情においては, AF地位が最も高く, 次いでF地位, A地位, DM地位, M地位の順であり, D地位が最も低かった。AF地位とF地位はDM地位, M地位, D地位との間に有意な差があり, またD地位はA地位, DM地位との間にも有意な差があった。

自己受容においては, 尺度Ⅰについては, M地位が最も高く, 次いでF地位, AF地位, DM地位, D地位の順であり, A地位が最も低かった。A地位とM地位の間には有意な差があった。

尺度Ⅱについては, F地位が最も高く, 次いでAF地位, DM地位, M地位, A地位, D地位の順であったが, 各地位間には有意な差はなかった。

尺度Ⅲについては, D地位が最も高く, 次いでM地位, AF地位, F地位とDM地位の順であり, A地位が最も低かった。D地位とAF地位, F地位, DM地位, A地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅳについては, D地位が最も高く, 次いでM地位, DM地位, A地位とF地位の順であり, AF地位が最も低かった。D地位とM地位はDM地位, A地位, F地位, AF地位との間に有意な差があり, またDM地位とAF地位との間にも有意な差があった。

(6) 中国の高校生女子の各同一性地位の自尊感情, 自己受容尺度得点

Table 11 に示すように, 自尊感情においては, F地位が最も高く, 次いでAF地位, M地位, DM地位, A地位の順であり, D地位が最も低かった。F地位とAF地位はM地位, DM地位, A地位, D地位との間に有意な差があり, またD地位とM地位, DM地位との間にも有意な差があった。

自己受容においては, 尺度Ⅰについては, F地位が最も高く, 次いでAF地位, M地位とDM地位, A地位の順であり, D地位が最も低かった。D地位はA地位を除く他の各地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅱについては, F地位が最も高く, 次いでAF地位, M地位, DM地位, A地位,

Table 10 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (中国高校生男子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差															
	A地位		AF地位		F地位		M地位		DM地位		D地位		A	A/D	A/F	A/DM	A/F	F/DM	F/D	M/DM	DM/D					
	人数	14~16	90~92	40~43	22~24	214~221	11~12	M	SD	3.23	0.41	3.29	0.31	3.27	0.36	3.01	0.60	3.12	0.32	2.82	0.48	**	**	**	**	
自己受容	I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	3.57	4.05	4.08	4.20	3.89	3.73	*																	
	II. 否定的な自己認知に対する自己受容	M	3.61	3.96	3.99	3.65	3.83	3.45																		
	III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	1.67	1.76	1.75	1.97	1.75	2.38						*												*
	IV. 否定的な自己認知に対する自己拒否	M	1.91	1.86	1.91	2.56	2.12	2.79																		**
		SD	0.68	0.68	0.72	0.89	0.73	1.22																		**

* p<0.05 ** p<0.01

Table 11 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (中国高校生女子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差															
	A地位		AF地位		F地位		M地位		DM地位		D地位		A	A/D	A/F	A/DM	A/F	F/DM	F/D	M/DM	DM/D					
	人数	11~12	60~62	33~37	26~27	228~240	8~9	M	SD	2.95	0.49	3.32	0.33	3.35	0.23	3.10	0.38	2.74	0.58	**	**	**	**	**	**	
自己受容	I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	3.69	4.11	4.20	4.02	4.02	3.08																		**
	II. 否定的な自己認知に対する自己受容	M	3.85	4.11	4.31	3.88	3.87	3.75																		**
	III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	1.90	1.56	1.57	1.79	1.61	2.47																		**
	IV. 否定的な自己認知に対する自己拒否	M	2.44	2.03	2.03	2.53	2.34	3.09																		*
		SD	0.91	0.72	0.74	0.83	0.78	1.31																		*

* p<0.05 ** p<0.01

Table 12 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (中国大学生男子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差							
	A地位		AF地位		F地位		M地位		DM地位		D地位		A/A	AF/AF	F/D	M/DM	DM/D	
	人数	26~28	81~84	26~29	18~22	207~216	10~11	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	
I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	3.03	3.26	3.34	3.17	3.02	2.90											
	SD	0.34	0.37	0.37	0.35	0.37	0.58											
II. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	3.81	3.86	4.03	3.76	3.87	4.14											
	SD	0.84	0.84	0.59	0.81	0.77	0.69											
III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	3.87	3.88	3.88	3.62	3.60	3.34											
	SD	0.73	0.68	0.90	0.92	0.83	0.88											
IV. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	1.68	1.70	1.60	1.69	1.78	1.84											
	SD	0.61	0.51	0.50	0.68	0.68	0.60											
自己受容	M	2.13	1.71	1.77	1.77	2.15	2.75	*	*	**	**	*	*	**	*	**	*	
	SD	0.61	0.64	0.54	0.45	0.77	0.77											

* p<0.05 ** p<0.01

Table 13 各同一性地位における自尊感情, 自己受容尺度得点 (中国大学生女子)

自尊感情	同一性地位										同一性地位間の差							
	A地位		AF地位		F地位		M地位		DM地位		D地位		A/A	AF/AF	F/D	M/DM	DM/D	
	人数	11	47~49	18~20	18~19	196~207	11~13	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	2.98	3.19	3.25	3.11	3.03	2.65											
	SD	0.46	0.41	0.47	0.45	0.35	0.43											
II. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	4.34	3.95	4.23	4.07	4.02	4.10											
	SD	0.62	0.74	0.61	0.86	0.74	0.88											
III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	3.86	3.78	4.09	3.82	3.60	3.27								*	*	*	
	SD	0.73	0.86	0.76	0.89	0.82	1.00								*	*	*	
IV. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	1.82	1.53	1.86	1.85	1.79	2.15											
	SD	0.84	0.62	1.07	0.90	0.70	1.02											
自己受容	M	2.66	1.90	1.94	2.67	2.46	3.19	*	*	**	**	*	*	**	*	**	**	
	SD	0.98	0.71	0.96	1.06	0.81	1.31											

* p<0.05 ** p<0.01

D地位の順であったが、各地位間には有意な差がみられなかった。

尺度Ⅲについては、D地位が最も高く、次いでA地位、M地位、DM地位、F地位の順であり、AF地位が最も低かった。D地位と他のすべての地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅳについては、D地位が最も高く、次いでM地位、A地位、DM地位の順であり、AF地位とF地位が最も低かった。D地位はDM地位、AF地位、F地位との間に、M地位はAF地位、F地位との間に有意な差があった。

(7) 中国の大学生男子の各同一性地位の自尊感情、自己受容尺度得点

Table 12 に示すように、自尊感情においては、F地位が最も高く、次いでAF地位、M地位、A地位、DM地位の順であり、D地位が最も低かった。F地位とAF地位はA地位、DM地位、D地位との間に有意な差があった。

自己受容においては、尺度Ⅰについては、D地位が高く、次いでF地位、DM地位、AF地位、A地位、M地位の順であったが、各地位間には有意な差がなかった。

尺度Ⅱ、尺度Ⅲについても、各地位間には有意な差がなかった。

尺度Ⅳについては、D地位が最も高く、次いでDM地位、A地位、F地位とM地位の順であり、AF地位が最も低かった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり、またDM地位はF地位、M地位、AF地位との間にも有意な差があった。さらにA地位とAF地位との間にも有意な差があった。

(8) 中国の大学生女子の各同一性地位の自尊感情、自己受容尺度得点

Table 13 に示すように、自尊感情においては、F地位が最も高く、次いでAF地位、M地位、DM地位、A地位の順であり、D地位が最も低かった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があった。

自己受容においては、尺度Ⅰについては、A地位が最も高く、次いでF地位、D地位、M地位、DM地位の順であり、AF地位が最も低かったが、各地位間には有意な差がなかった。

尺度Ⅱについては、F地位が最も高く、次いでA地位、M地位、AF地位、DM地位の順であり、D地位が最も低かった。F地位はDM地位、D地位との間に有意な差がみられた。

尺度Ⅲについては、D地位が最も高く、AF地位が最も低く、D地位とAF地位との間に有意な差がみられた。

尺度Ⅳについては、D地位が最も高く、次いでM地位、A地位、DM地位、F地位の順であり、AF地位が最も低かった。AF地位とF地位はD地位、M地位、A地位、DM地位との間に有意な差があり、D地位とDM地位との間にも有意な差があった。

考 察

以上の結果に基づいて、日本の高校、大学生と中国の高校、大学生の自尊感情、自己受容、自我同一性について考察していく。

まず自尊感情については、中国の高校、大学生は男女ともに日本の高校、大学生よりも

有意に高い自尊感情を持っている。この結果は高木・張（1989）の結果とほぼ一致する。中国の高校、大学生は自分に対してかなり自信を持っているようである。大学生の場合には、多数の中の競争に打ち勝ったことが自信の裏づけとなっていることもあるかもしれないが、むしろそれ以前の小さな頃からの学校教育や社会教育の成果として、社会の発展に貢献する存在としての自己意識が高められてきたためと考えた方がよいであろう。しかし、中国の高校生と大学生を比較すると、わずかではあるが大学生の自尊感情が低下している。これは、調査時期より約半年前の天安門事件の影響が残っているためであるかもしれない。一方、日本の場合には高校生よりも大学生の方が自尊感情が高くなっており、青年期の一般的な発達像を示している。性差をみると、中国の高校、大学生には性差がみられなかったが、日本の高校、大学生では男子の方が女子よりもやや高い自尊感情を持っている。この結果には、日本と中国の学校や社会の相違も反映されていると推測される。

次に自己受容についてみると、自尊感情と同様に、中国の高校、大学生は日本の高校、大学生よりもかなり自己受容の傾向が高くなっている。中国の青年は自分に自信を持つと同時に、前向きに自己を受け入れている。しかしその姿勢も、否定的な自己に対する受容でみると、高校生から大学生になると低下している。ここにも、日本の青年とは違った中国の青年の特徴が現われている。

自我同一性についてみると、「現在の自己投入」得点は日本よりも中国の高校、大学生の方が高く、「過去の危機」得点は中国の高校、大学生の方が低い。また同一性地位をみても、「権威受容地位」と「同一性達成—権威受容中間地位」は日本よりも中国の高校、大学生の方が多い。一方、「同一性拡散地位」は日本の高校、大学生の方が中国の高校、大学生よりも多い。このように中国の青年の特徴として、あまり危機を体験せずに現在の自己投入がなされている点が指摘される。その結果、F地位やAF地位が日本の青年よりも多くなっている。この危機の体験の少なさは、恐らく中国の学校教育や社会教育によるものであり、また中华民族の歴史的特徴、伝統的な文化の影響、及び現在の中国の社会や政治の特徴の反映でもあろう。

同一性地位の発達の变化をみると、日本の場合には高校生から大学生になると「同一性達成地位」や「積極的モラトリアム地位」が増え、「同一性拡散地位」が減っているように、ポジティブな発達の变化を示している。それに対して、中国の場合にはそのような発達の变化はみられず、高校生と大学生の同一性地位には大きな相違がない。ここにも現在の中国の青年の特徴が現われているが、この特徴の一般性や普遍性については、さらに多くの研究を積み重ねた上で判断すべきである。

最後に、同一性地位と自尊感情、自己受容との関連について考察する。同一性地位と自尊感情との間には、日本と中国の高校、大学生に共通してほぼ同一の関連が認められる。すなわち、いずれにおいても「権威受容地位」と「同一性達成—権威受容中間地位」の青年の自尊感情は高く、「同一性拡散地位」の青年の自尊感情は低い。「同一性達成地位」の青年の自尊感情がそれほど高くなく、「権威受容地位」の青年の自尊感情が高いのは「過去の危機」の体験が自尊感情の形成にあまりポジティブな影響をもたらしていないという事なのか、それとも本研究で使用した自我同一性測定尺度の問題であるのか、その原因

についてはさらに今後の検討が必要である。

同一性地位と自己受容との関連には日本と中国の間に相違がみられる。自己受容を「否定的な自己認知に対する自己受容」によってみると、日本の高校、大学生では「同一性達成地位」「同一性達成—権威受容中間地位」「権威受容地位」「積極的モラトリアム地位」の者の自己受容得点が高く、「同一性拡散地位」の者の自己受容得点が高い。中国の高校、大学生では、大学生女子においては日本の高校、大学生と同様の関連がみられるが、高校生男女、大学生男子にはそのような関連がみられない。その大きな原因は「同一性拡散地位」の者の自己受容の高さにあると考えられる。自我同一性に問題があるにもかかわらず、なぜ自己受容できるのか。この点については、中国の社会や文化、国民性などを考慮した分析が必要であろう。ここでは、今後の検討課題とする。

〔謝辞〕 本研究の実施にあたっては、林崇徳、沈徳立、周志宏、呉昌順、馬開叔、王可、清水利信、平出彦仁、山口正二、宮野祥雄、吉田富二雄、沢崎達夫、片岡誠一、広田真二、石曾根健、平井鋼太郎、井上弑喜、中川尚志、工藤恒久、雨谷正夫、越村信作、市来康人の各先生に多大な御協力をいただきました。記して謝意を表します。

引用文献

- Erikson, E. H. 1959 Identity and the life cycle. International Universities Press. 小此木啓吾(訳編) 1973 自我同一性 誠信書房
- 加藤 厚 1983 大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究, 31, 20-30.
- 加藤隆勝 1977 青年期における自己意識の構造 東京大学出版会
- Rogers, C. R. & Dymond, K. F. 1954 Psychotherapy and personality change. University of Chicago Press.
- Rosenberg, M. 1965 Society and the adolescent self-image. Princeton University Press.
- Spranger, E. 1963 Psychologie des Jugendalters. 27 Aufl. 原田茂(訳) 1973 青年の心理 協同出版
- 高木秀明・徳永由紀 1989 自己受容に関する一研究——測定尺度作成の試み、及び自尊感情等との関連について—— 日本教育心理学会第31回総会発表論文集, 227.
- 高木秀明・張 日昇 1989 青年期の心理的特徴に関する日中比較研究(1)——自尊感情、独立意識、及び対人態度について—— 日本心理学会第53回大会発表論文集, 75.

付 録

I. 自尊感情質問項目

<日本語>

次にいくつかの短文が書いてあります。それぞれの短文を読んで、あなた自身にあてはまる場所に1つ○をつけて下さい。

(回答は「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「すこしあてはまる」、「非常にあてはまる」の四肢択一)

1. 私はすべての点で、自分に満足している。
2. 私はときどき、自分がかたがた思

<中国語>

请认真阅读下列短句，根据你自身的判断，从短句右侧的四项不同的判断层次中选择与你相适合的一项，并将与这项相对应的“+”号用○圈起来。

1. 对自己，我在各方面都很满意。
2. 我时常感到自己彻底完了。(一)

う。(一)

- | | |
|---|--|
| <p>3. 私は、自分にはいくつかの見どころがあると思っている。</p> <p>4. 私はたいいていの人がやれる程度には、物事がやれる。</p> <p>5. 私にはあまり得意に思うことがない。(一)</p> <p>6. 私はときどき、たしかに自分が役立たずだと感じる。(一)</p> <p>7. 私は少なくとも、自分が他人と同じレベルに立つだけの価値のある人だと思う。</p> <p>8. もう少し自分を尊敬できたならばと思う。(一)</p> <p>9. どんなときでも例外なく、自分を失敗者だと思いがちだ。(一)</p> <p>10. 私は自分自身に対して、前向きな態度をとっている。</p> | <p>3. 我想，我多少是有前途的。</p> <p>4. 无论做什么事情，大多数人能做到什么程度，我就能做到什么程度。</p> <p>5. 我没有多少能使自己感到得意的事情。(一)</p> <p>6. 我经常感到自己确实没用。(一)</p> <p>7. 我想，我起码是和他人具有同等价值的人。</p> <p>8. 我想，假如能更自尊一点就好了。(一)</p> <p>9. 无论何时，我都毫不例外地感到自己是失败者。(一)</p> <p>10. 对自己，我持有向前看的进步态度。</p> |
|---|--|

(一)の項目は逆転項目

标有(一)号的问题为逆反问题

II. 自己受容質問項目

<日本語>

次にいくつかの短文が書いてあります。それぞれの短文を読んで、あなた自身にあてはまるところに1つ○をつけて下さい。

(回答は「あてはまらない」、「少しあてはまる」、「だいたいあてはまる」、「かなりあてはまる」、「とてもよくあてはまる」の五肢択一)

尺度I (肯定的な自己認知に対する自己受容)

1. 私は、自分の長所が発揮された時、満足感を覚える。
2. 私は、何かに成功した時、自分の才能や努力に満足できる。
3. 私は、仕事をうまくやりとげた時、自分に自信が持てる。
4. 私は、人から認められた時、自分を価値ある人間だと思う。

尺度II (否定的な自己認知に対する自己受容)

1. 私は、欠点があっても、自分が好きだ。
2. 私は、ありのままの自分を受け入れている。
3. 私は、長所だけではなく、欠点も含めて自分を大切にしている。

<中国語>

请认真阅读下列短句，根据你自身的判断，从短句右侧的五项不同的判断层次中选择与你相适合的一项，并将与这项相对应的“+”号用○圈起来。

尺度I

1. 当我能发挥自己的长处时，我会感到心满意足。
2. 当我获得某种成功时，我会对自己的才能、努力精神感到满意。
3. 当我的工作做得很得心应手时，自己就很有自信。
4. 当我得到别人的承认时，我认为自己就是一个有价值的人。

尺度II

1. 即便我存在着缺点，我仍然喜欢自己。
2. 我只接受自己的本来面貌。
3. 我珍重既有缺点，又有优点的自我。

4. 私がどんな人間であろうとも、私の存在そのものに価値がある。

尺度Ⅲ（肯定的な自己認知に対する自己拒否）

1. 私は、人から感謝されることがあっても、自分の価値を実感できない。
2. 私は、何か目標を達成しても、自分の存在自体には意味を見出せない。
3. 私は、人からほめられても、自分に満足できない。
4. たとえ私に長所があっても、私は自分を好きではない。

尺度Ⅳ（否定的な自己認知に対する自己拒否）

1. 私は、人から非難されると、自信を失う。
2. 私は、何かで失敗すると、気分が落ち込んでしまう。
3. 私は、自分の才能や努力に限界を感じた時、自分を価値のない人間だと思う。
4. 私は、人に迷惑をかけた時、自分をダメな人間だと思う。

Ⅲ. 自我同一性質問項目

<日本語>

次にいくつかの短文が書いてあります。それぞれの短文を読んで、あなた自身にあてはまる場所に1つ○をつけて下さい。

（回答は「全然そうではない」、「そうではない」、「どちらかといえばそうではない」、「どちらかといえばそうだ」、「かなりそうだ」、「まったくそのとおりだ」の六肢択一）

尺度Ⅰ（現在の自己投入）

1. 私は今、自分の目標をなしとげるために努力している。
2. 私には、特にうちこむものはない。（一）
3. 私は、自分がどんな人間で何を望みおこなおうとしているのかを知っている。
4. 私は、『こんなことがしたい』という確かなイメージを持っていない。（一）

尺度Ⅱ（過去の危機）

1. 私はこれまで、自分について自主的に重大な決断をしたことはない。（一）
2. 私は、自分がどんな人間なのか、何をし

4. 不管自己是怎样的人，我存在本身就具有其价值。

尺度Ⅲ

1. 我，即便被他人所感谢，也体验不到自身的价值。
2. 我，即便达到了某种目标，也发现不出自身的存在价值。
3. 即便获得了别人的赞誉，我对自己也不满意。
4. 比喻说，即便我有长处，我还是不喜欢自己。

尺度Ⅳ

1. 一受到他人的责难，我就会丧失自信。
2. 一遇到失败，我的情绪就会急落直下。
3. 当对某些事情感到无能为力时，我就觉得自己是一个没有价值的人。
4. 当给别人添了麻烦时，我就觉得自己是无能之辈。

<中国語>

请认真阅读下列短句，根据你自身的判断，从短句右侧的六项不同的判断层次中选择与你相适合的一项，并将与这项相对应的“+”号用○圈起来。

尺度Ⅰ

1. 我正在为实现自己的目标而努力。
2. 我并没有特别热衷的事情。（一）
3. 我深知自己是怎样的人，自己的希望与追求。
4. 我没有想干一种什么事情的确切主意。（一）

尺度Ⅱ

1. 到目前为止，我还没有自主地对有关自己的事情做出重大的决断。（一）
2. 我曾经认真地深思过自己是怎样的人，自

たいのかということ、かつて真剣に迷い考えたことがある。

3. 私は、親やまわりの人の期待にそった生き方をする事に疑問を感じたことはない。
(一)

4. 私は以前、自分のそれまでの生き方に自信が持てなくなったことがある。

尺度Ⅲ (将来の自己投入の希求)

1. 私は、一生けんめいにうちこめるものを積極的に探し求めている。
2. 私は、環境に応じて、何をする事になっても特にかまわない。(一)
3. 私は、自分がどういう人間であり、何をしようとしているのかを、今いくつかの可能な選択を比べながら真剣に考えている。
4. 私には、自分がこの人生で何か意味あることができるとは思えない。(一)

(一)の項目は逆転項目

己应该做些什么等问题。

3. 到目前为止，我还不曾对按照父母及周围的人所期待的生活准则做事产生过怀疑。(一)

4. 我曾经对自己的人生观失去信心。

尺度Ⅲ

1. 我正在努力探求我所能投身的事业。
2. 我能适用环境，可以随机应变。(一)
3. 我现在在比较几种可能的选择，同时，认真地思考我是怎样的人，我应该做些什么。
4. 在人生的旅途上，我不认为自己能做什么有价值的事情。(一)

标有(一)号的问题为逆反问题